

河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究 —日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の2021年度活動報告—

A report on the development of exchange platform for information sharing and collaboration toward river restoration: Activities of the Japan River Restoration Network in 2021

水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 和田 彰
 審議役 土屋 信行
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 澤田みつ子
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史
 自然環境グループ 研究員 白尾 豪宏

1. はじめに

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報交換・共有を通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年より活動を開始し16年が経過した。また、JRRNは「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、韓国や中国など海外機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の事例情報等を日本国内に還元する役割を担い、JRRNの事務局を当研究所が務めている。

本稿では、2021年度にJRRNが取組んだ川づくりに関する情報共有基盤の整備、担い手育成に向けた普及・啓発活動、及び国際交流活動について報告する。

2. 2021年度のJRRN活動内容

2-1 川づくりに関わる情報共有基盤の整備

国内外の川づくりに関するニュース、行事、取組事例、新刊書、施策等の最新情報を、ウェブサイト、facebook及びYouTube等のSNS、ニュースメールやニュースレター等の情報媒体を通じて広く社会に発信した(表-1)。

また、JRRN会員や海外連携機関からの各種提供情報の共有を図り、川づくりに関わる情報と担い手を繋げる情報共有基盤の構築に努めた。

なお、現在運用する情報発信システムの老朽化や情報セキュリティ強化による運用サーバー仕様変更等の理由から、ニュースメールなどの一部サービスが全ての会員に届けることができず、新たな情報発信媒体が登場する中で、JRRNによる情報発信の再構築の必要性を痛感した一年でもあった。

表-1 2021年度 情報共有の活動実績 ※()前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ウェブサイト	随時	228件 (191件)
facebook	随時	62件 (19件)
ニュースメール	毎週配信	48回 (49回)
ニュースレター	毎月発行	11回(12回)

2-2 川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援 ～小さな自然再生の普及促進～

JRRNでは、①自己調達できる資金規模であること、②多様な主体による参画と協働が可能であること、③修復と撤去が容易であること の3条件を満たす活動と定義する「小さな自然再生」の普及促進を2014年より取組み、これまで講演会や現地研修会等の交流行事開催、事例集やウェブサイト、データベース等の支援ツールの制作及び全国への普及を行っている。

2021年度は、昨年度に引き続き、3回の「小さな自然再生」現地研修会を企画・開催した。これまで開催した現地研修会の開催地を図-1に示す。



図-1 これまでの現地研修会開催地 (全14回)

新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度も開催規模を縮小して開催し、各開催地の共催及び協力団体関係者、座学講師や現場技術指導役として協力頂いた「小さな自然再生」研究会の専門家チームの協力を得て、現地研修会を2021年11月に連続開催した(表-2、写真-1)。

表-2 全3回の現地研修会開催概要

行事名	第12回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021年11月14日(日)
開催場所	東京都中野区・神田川流域善福寺川
主テーマ	自然観察から都市河川でできることを考えよう
主催	青少年育成鍋横地区委員会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	中野区
参加人数	44名
行事名	第13回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021年11月21日(日)
開催場所	滋賀県守山市・野洲川流域大川
主テーマ	河口部・内湖の保全と再生を考える
主催	淡海を守る釣り人の会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	滋賀県、守山市、(一財)セブンイレブン記念財団
参加人数	34名
行事名	第14回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2021年11月28日(日)
開催場所	北海道釧路市・釧路川流域支川
主テーマ	釧路川支川の魚類生息環境を再生する
主催	釧路自然保護協会、小さな自然再生研究会、JRRN
後援	釧路市、釧路湿原自然再生協議会 河川環境再生小委員会
参加人数	42名



写真-1 東京(左上)、釧路(右上)、滋賀(下段)

2-3 川づくりの国際的な技術交流

新型コロナウイルス感染拡大により対面形式での国際交流は今年度も実施できなかったが、オンライン形式でのアジアの川づくりに関する国際交流を行った。

(1) 韓国ソウル市主催「Water Seoul 2021」

2021年10月7日(金)に韓国・ソウル市主催「Water Seoul 2021 ~Cities for Climate Resilience」国際シンポジウムがオンライン開催され、JRRNより東京の水防災対策に関わる事例発表を行った。

(2) ARRN主催「第15回ARRN運営会議」及び「第17回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」

2021年11月16日(火)に、ARRN理事会に相当する「第15回ARRN運営会議」をオンライン開催し、日中韓の各RRNメンバーが参加し、ARRNの組織体制、活動計画及びネットワーク拡大に向けた審議を行った。またARRN運営会議の後には、『第17回ARRN水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を「中小河川流域の統合的管理」をテーマにオンライン開催し、日本JRRN、中国CRRN、韓国KRRNより各4題の発表がなされた。

3. おわりに

JRRNの諸活動は、JRRN/ARRN会員や国内外の連携機関との協働で成り立っている。また、小さな自然再生の普及促進活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受け、「小さな自然再生」研究会や自治体等との協働で実施した。当活動にご支援・ご協力頂いた皆様に厚く感謝を申し上げます。



写真-2 Water Seoul 2021(上)、ARRN行事(下)